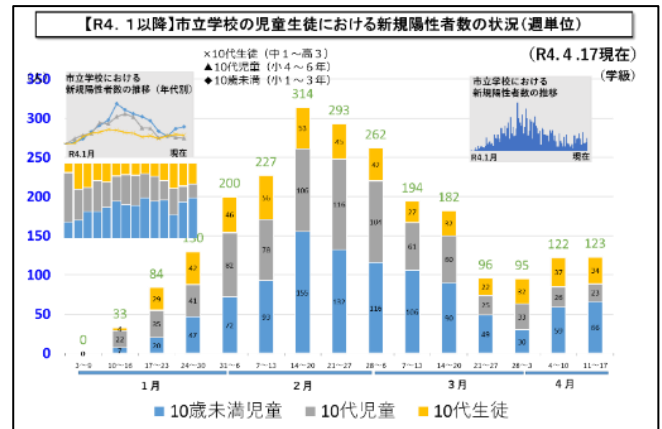


令和4年度 4月定例校長会 教育長講話 要約

1. 新型コロナウイルス感染症について

新型コロナウイルス感染症も第6波の終息が見いだせない状況の中、全国で10代と20代の感染者が約半数を占め、再び増加傾向が心配されます。引き続き、各学校では気を緩めることなく、感染予防に努めてください。

コロナ禍での学校生活も3年目を迎えました。「令和の日本型学校教育」は、個別最適な学びと協働的な学びを実現し、全ての子どもたちの可能性を引き出すことを目指しています。そのためにICT端末の活用は不可欠であり、授業中の活用に加え、コロナ感染で登校できない子どもたちや不登校の子どもたちにも学習保障ができるように、継続的・発展的な活用をお願いします。



2. 4月に開校した新しい学校について

(1) 一条高等学校附属中学校

4月5日に入学式を行い、80名の生徒が希望と期待を胸に入学しました。附属中学校では、中・高の6年間一貫した教育の強みを生かし、社会と教室がつながり「自立的」で「個別最適化」された教育の実現を目指していきます。開校式で私から「新しい価値を創造し、多様な生き方を自ら選ぶことができるようになってほしい。」と一期生にエールを送りました。

この自立した学び、生き方は市内全ての小・中・高等学校の子どもたちに対する願いです。各学校でも、生徒一人一人に応じた探究的な学びや、Arts STEM教育といった教科横断的な学びを取り入れてください。



(2) ならやま小中学校

本市で4校目となる施設一体型小中一貫校になります。4月6日に始業式が、続いて4月8日には入学式が小中合同で行われました。ならやま小中学校では、4-3-2のステージ制のもと、小学部の5年生・6年生で教科担任制が導入されます。また、総合的な学習の時間では、地域の方々と連携した探究的な学びが始まります。

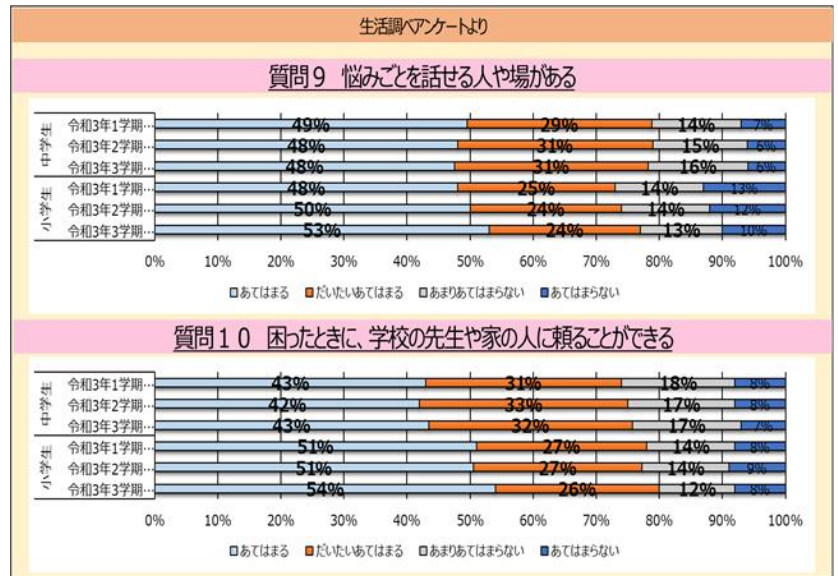
2校には、奈良市の新しい教育の牽引校としての役割を期待しています。教育委員会としても、2校の実践について情報発信し、研修の機会も設けていきます。各学校でも情報を共有し、取組に生かしてください。



3. 昨年度実施した2つのアンケート調査の結果について

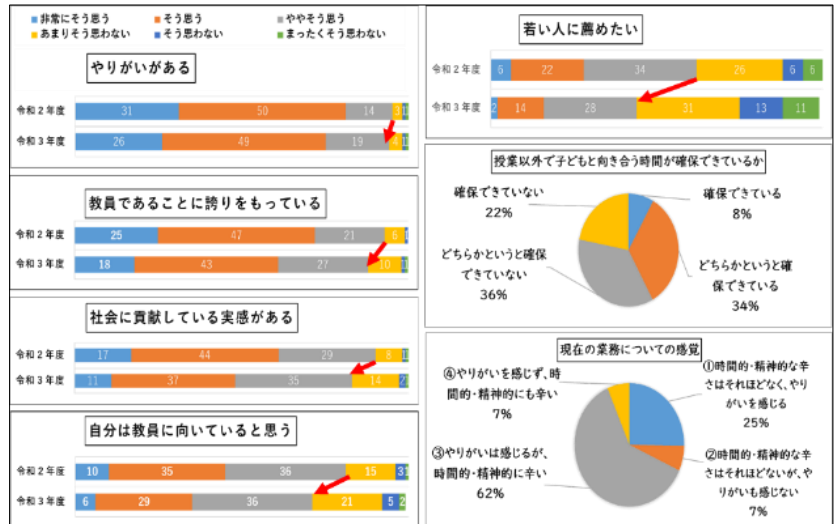
(1) 生活調べアンケート

生活調べアンケートでは、「悩みを話せる人や場がある」「困った時、学校の先生や家の人に頼ることができる」については、8割近くが「ある」と回答しています。一方で、2割の子どもたちが自分のSOSを発信しにくい状況にあることがわかりました。学校が始まり2週間、子どもたちは人間関係や生活環境も変わり不安定な状況にあります。この生活調べアンケートを学校全体で共有し、子どもたち一人一人が安心して通える学校にしてください。



(2) 奈良市教員意識調査アンケート

奈良市教員意識調査より、教職員は「職業についてやりがいがある(88%)」「教員に誇りを持っている(83%)」「社会に貢献している実感がある(71%)」と、肯定的回答の割合が高い一方で、「自分が教員に向いている(71%)」「若い人に薦めたい(44%)」と、肯定的回答が減少しています。さらに、「授業以外で子どもと向き合う時間が十分確保できている(42%)」、「時間的・精神的な辛さがなく、やりがいを感じている(25%)」と、肯定的回答がさらに低くなっています。一年前のアンケートと比較しても、全ての項目で昨年度調査より、肯定的回答の割合が減少していることがわかりました。



この結果を各学校で振り返り、先生方が健康で毎日元気に、笑顔で子どもと向き合える環境となるように、教職員の働き方改革を進めてください。

4. 学校の「当たり前」を見直し実行することについて

最後に、今年度も学校の当たり前を見直し、前例踏襲の学校経営ではなく、これからの時代に合った学校経営を進め、子どもと保護者のニーズや負担軽減にスピーディーに対応し、保護者・地域に信頼される学校づくりをお願いします。

教育委員会では、各課の職員も「奈良市の子どもたちのために」という思いは同じです。これからも教育委員会と密にやり取りをし、誰一人取り残すことのない教育を推進してください。

学校の当たり前を見直す

前例踏襲型の学校経営から
これからの時代にあった学校経営へ

「子どもの安全、安心を第一」に
「学びを止めない取組」を